

http://www

新型インフルエンザ ニュースレター@青森県

Pandemic Flu Newsletter @Aomori Pref

新型インフルエンザ関連情報をお届けする、ニュースレター

現在は、「平時」(新型インフルエンザが発生していない状態)です。

発行日 Newsletter Date

2012年6月29日

フロントページ

『新型インフルエンザ・ニュースレター@青森県』2012年第9号

目次 Inside This Issue

- 1 『新型インフルエンザ・ニュースレター@青森県』第9号
- 2 新型インフルエンザ等対策特別措置法に関する都道府県主管課長会議開催
- 3 鳥インフルエンザなどの発生情報

こんにちは、青森県保健衛生課です。

多くの皆様にご覧いただき、誠にありがとうございます。

今後も引き続き、『新型インフルエンザ・ニュースレター@青森県』を
平時での新型インフルエンザ対策のほか、通常の季節性インフルエンザ
対策にもご活用ください。

お知らせ

新型インフルエンザ等対策特別措置法に関する都道府県担当課長会議開催

内閣官房は、6月26日、今年5月11日公布の新型インフルエンザ等対策特別措置法に関する都道府県向けの担当課長会議を開催しました。

会議では、新型インフルエンザに関する最近の動向やこの法律の概要の説明のほか、来春の法律施行に向けてのスケジュール等の説明がありました。

【内閣官房 新型インフルエンザ等対策特別措置法に関する都道府県担当課長会議 6月26日】

<http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/ful/housei/240626kachoukaigi/sidai.html>

ニュース

鳥インフルエンザなどの発生情報

鳥インフルエンザ A (H5N1) のヒトへの感染症例

1. エジプト保健省は、6月7日、鳥インフルエンザ (H5N1) の新たな1例の確定症例を発表。患者等に関する情報は次のとおりです。

- ・ 患者はカフル・アッシュアイフ県の4歳の女児で、4月25日に発症、26日に入院し直ちに抗インフルエンザ薬(タミフル)による治療を受け、5月7日に退院。
- ・ 感染源の調査では、患者は近所の鶏に曝露しています。
- ▶ エジプトでは、2006年以降168例の確定患者が発生し、うち60例が死亡しています。今年(2012年)では10例の確定患者が発生し、5例が死亡しています。

【WHO 鳥インフルエンザ-エジプトの状況 6月7日】

http://www.who.int/csr/don/2012_06_07/en/index.html

○ 鳥インフルエンザ A (H5N1) が再出現した2003年以降、2012年6月7日までに、WHOに報告された鳥インフルエンザ A (H5N1) 確定症例の累計数は606人となっており、そのうち357人が死亡しています。(致死率は、

WHOが確認した鳥インフルエンザ A (H5N1) 感染症例 (2003年～2012年6月7日)

確定症例	606人
うち死亡例	357人
致死率	58.9%

58.9%)

【WHO ヒトの高病原性鳥インフルエンザ (A/H5N1) 感染確定症例数】

http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/H5N1_cumulative_table_archives/en/index.html

WHO は、「鳥インフルエンザ (H5N1) のヒトの感染等に関する要約と評価 (6月4日現在)」を発表。その概要は次のとおりです。

(前回の報告 (2012年5月7日) から6月4日までの状況)

- ・ 2例の新たな確定患者の発生がカンボジア、中国で報告されています。
- ・ 最近の確定患者の発生曲線はこれまでの年と同じく、北半球での冬季には発生が多く、夏季に向けて減少するという傾向を示しています。このヒトでの傾向は、鳥における発生の季節的傾向に即したものとなっています。

○全体的な公衆衛生上のリスク評価

家禽における発生報告の減少は、毎年この時期では予測されていたもので、家禽において流行している国におけるこの2例の散発的な発生は予測の範囲内となっています。これら患者の散発的な発生は継続的なヒト-ヒト感染に関する懸念を高めるような特徴を持っているとは考えられていません。

【WHO 人獣共通のインフルエンザ 2012年6月4日現在の要約と評価】

http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/HAI_Risk_Assessment/en/index.html

インフルエンザの発生情報・研究報告など

○報告：家畜として飼養されるギニーピッグにおけるインフルエンザ感染、エクアドル

CDC は、エクアドルの家畜用ギニーピッグ (モルモット) のインフルエンザウイルスへの自然感染についての血清調査を実施。A型及びB型のインフルエンザ抗体の検出が同地域での環境及び疫学上のギニーピッグの役割に関する疑問を生じているとの報告。この調査は海拔 2,500m のアンデス地域で行われたものですが、鳥インフルエンザが存在していないとされていた同国のギニーピッグの数匹においてインフルエンザ (A/H5) の抗体をもつことが判明しています。

【EID 家畜として飼養されるギニーピッグにおけるインフルエンザ感染 2012年7月号】

http://wwwnc.cdc.gov/eid/article/18/7/11-1930_article.htm

○報告：多種の鳥インフルエンザウイルス (A/H5N1) の侵入、ラオス

CDC は、2009年から2010年にかけて、*クレード 2.3.4.1、2.3.4.2 及び 2.3.2.1 の鳥インフルエンザウイルス (A/H5N1) がラオスに侵入したことから、2010年3月に家禽におけるサーベイランス調査を実施した結果を報告。報告では同国内で2010年5月にアウトブレイクを引き起こしたクレード 2.3.4 のウイルスを含むこれらのウイルスを検知したとしています。

【EID 2009~2010年のラオスでの多種の鳥インフルエンザ (H5N1) の侵入 2012年7月号】

http://wwwnc.cdc.gov/eid/article/18/7/11-1930_article.htm

(※H5N1 亜型の中でも僅かな抗原性の違いにより種類 (遺伝子系統) の違うものがあり、この種類を「クレード」といいます。)

○報告：ブタの検体における変異型 H3N2 ウイルスの追跡

米国農業省は、2011年の後半から12例のヒト (主として子供) での感

染報告があった変異型 H3N2 ウイルスの出現とブタでの変異の状況に関する分析結果を報告。これによると、ブタにおけるこのウイルスの変異の頻度は 12 例の感染報告を説明できるほど十分に高いものではなかったもののほか、このウイルスの「H3」は 1990 年代にヒトからブタへ伝播したものである一方、「N2」は 2001～2002 年にヒトから獲得したもので、このことがこのウイルスが主として子供に感染してきた理由を説明できる可能性があるとしています。

【J Virol 2009～2011 年の北米ブタ及びヒトでの変異型 H3N2 ウイルスの変異 6 月 13 日】
<http://jvi.asm.org/content/early/2012/06/08/JVI.00259-12.abstract>

○報告：長期にわたるインフルエンザシーズン、香港

香港当局は、インフルエンザシーズンが異例なほど長期にわたり、この時期として週当たり約 100 人の患者が通常であるところ、今期は週当たり 600 人の患者が発生していると報告。当局はウイルスの遺伝子変異がその原因とみられるものの真の原因は明らかでないとしています。

香港では今年 1 月以降インフルエンザ関連で 170 人が死亡しその 90% が高齢者であるとしています。

【香港 インフルエンザシーズンが長期になる可能性 6 月 18 日】
http://www.news.gov.hk/en/categories/health/html/2012/06/20120618_100817.shtml

○研究：世界の H1N1 パンデミックによる推計死亡者数は 284,000 人

CDC を中心とする研究チームは、世界での 2009 年の H1N1 インフルエンザパンデミックによる死亡者数は世界で約 284,000 人と推計。これまでインフルエンザ関連での死亡者の多くはインフルエンザ検査が行われてこなかったため、これまでも WHO が公表しているパンデミックによる死亡者数 18,449 人（最小数）という数字は実際の数字よりはかなり下回っていると見なされていました。

【Lancet 2009 年 H1N1 インフルエンザウイルスが循環した最初の 12 ヶ月における世界的な死亡者：モデル研究 6 月 26 日】
[http://www.thelancet.com/journals/laninf/article/PIIS1473-3099\(12\)70121-4/abstract](http://www.thelancet.com/journals/laninf/article/PIIS1473-3099(12)70121-4/abstract)

○報告：養鶏場で高病原性鳥インフルエンザ H7N3、メキシコ

メキシコ獣疫当局は、国内 3 カ所の養鶏場で 20 万羽以上の鳥が死亡した原因病原体は高病原性鳥インフルエンザ H7N3 であったと報告。同国での鳥インフルエンザの発生は 1990 年代半ばに鳥インフルエンザ H5N2 が鳥群で発生して以来初めてで、6 月 13 日に 3 つの養鶏場でアウトブレイクが始まって以降これまでに約 59 万羽が発症し、その症状は倦怠状態、発熱などとなっています。

【OIE 国際獣疫事務局への報告 6 月 26 日】
http://web.oie.int/wahis/public.php?page=single_report&pop=1&reportid=12074

「編集後記」は休みます

発行：青森県健康福祉部保健衛生課

030-8570 青森県青森市長島 1-1-1

Phone:

017-734-9215

Fax:

017-734-8047

E-mail:

hoken@pref.aomori.lg.jp

青森県庁「インフルエンザ対策」

http://www.pref.aomori.lg.jp/welfare/health/pandemic_flu_action.html

青森県庁「新型インフルエンザ・ニュースレター@青森県」

http://www.pref.aomori.lg.jp/welfare/health/shingata_flu_taisaku.html#newsletter